

# 学ぶ楽しさを感じ、確かな学力を身につける子どもの育成

～伝え合いを意識したICTの活用～

丹波市立和田小学校

〒669-3157  
兵庫県丹波市山南町和田1

<http://edu.city.tamba.hyogo.jp/wada-es/>

## 1、はじめに

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われており、このような知識基盤社会化やグローバル化の状況において、「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。また、本年度より本格実施される新学習指導要領の改訂においては、生きる力という理念を継承し、生きる力を支える確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成を重視している。

本校では、平成19年度以来、「学ぶ楽しさを感じ、確かな学力を身につける子どもの育成」をテーマに掲げ、研究に取り組んできた。その方法として、教科学習の中で、コンピュータ、実物投影機、プロジェクター等のICT機器を活用することを取り上げ、それらを使うことで学習効果が上がる単元や内容を見出し、授業の中でその効果を確かめてきた。学力の二極化傾向が指摘され始め、本校の児童にも同じような傾向が感じられるようになってきた。そこで、授業の中でICT機器を効果的に活用することによって授業改善を図る取り組みを続けてきた。

もちろん、一時間の授業のすべてにおいてICTを使うのではないし、ICTを使いさえすれば授業が深まるというわけではない。ポイントを絞って授業の一部で、効果的に活用していくことが大切である。あくまで、教員がその一時間の目標を明確にし、どんな場面でICTを使うのか、また、ICTを活用することで何をねらっているのかをしっかりと把握して初めて、ICTが生きてくる。つまり、これまでと同じように授業をどう組み立てるかを考えていくとき、授業の一部にさりげなくICTを加えることで、より児童の理解が深まり、興味関心を高めることができた。ICTを使うことが目的ではなく、目的はあくまで授業の目標を達成することにあるということ、ここでもう一度確認しておきたい。

こうした取り組みの中で見えてきたことは、ICTを効果的に活用して学力向上を図るためには、やはり確かな学級づくり、授業づくりが基盤となることである。さらには、確かな教材研究があつてこそICTの効果的な活用場面が生まれるということも確認できた。また、従来から使われてきた黒板やプリント、書籍資料にはICTにはない「良さ」があるので、従来の授業スタイルを変える必要はない。文部科学省が出している「教育の情報化に関する手引き」の中にも、「より高い教育効果に結びつけるためには、ICT活用に加えて、日ごろからの児童生徒の実態把握、授業における活用のタイミング、発問、指示や説明といった従来からの授業の展開との融合も重要となる。」と書かれている。このことから、ICTと非ICTのそれぞれの良さをうまく組み合わせながら授業を組み立てていくことが研究のポイントとしてきた。

昨年度の取り組みの中で見えてきたことは以下のとおりである。

○教員はもちろん、児童もICT機器の操作に慣れてきた。

○発問、指示、板書をセットで考えることが自然にできるようになった。

○ICT機器の便利さと良さが分かってきたことで、「効果的に使う」ということを意識できるようになってきた。

○準備にかかる労力が減った分、時間が生み出されたことで習熟や理解に時間をかけられるようになってきた。

○伝え合いの場面にICTが入ることで、授業に意欲的に参加する児童が増えてきた。さらに、表現方法の幅も広がり、伝え方もレベルアップしてきた。

○ICTと併用することで、かえってアナログ教材の大切さが認識できた。

この中で、特に注目したのはICT機器を使った伝え合いの場面において、意欲的に活動する子どもの姿が見られたことである。以下、児童の感想である。

- ・みんなの意見をスクリーンに映して伝え合いをするといい。
- ・前にみんなの意見が映しだされると、私も発表しようという気持ちになる。
- ・前に出て発表するとき、ワークシートを映してもらって聞いてわかりやすい。
- ・絵で説明する時、ICTを使うと発表が苦手な子でも楽しく勉強できたり、勉強に興味を持ったりできる。
- ・教科書を使って細かく説明したい時に伝えやすい。
- ・前に映すので、前を見て発表ができる。

## 2、研究仮説

◎ICT機器を使った伝え合いをすることで、意欲的に話したり聞いたりする児童が増え学習集団としての高まりが生まれるであろう。

## 3、研究の内容

(1) 多くの場面でICTを活用した授業を行った。

- ①基礎的・基本的な学習内容を確実に習得。
- ②単元、年間を通して「普段の授業の中で」「無理なく」「自然に」ICT機器を活用。
- ③ICTに関するスキルの向上。スマートノート、フラッシュ型教材の活用。
- ④ICT活用場面における目的、場面、工夫

### 【ICTを活用する目的（4つの観点）】

- 学習に対する児童生徒の興味関心を高める。
- 児童生徒の一人一人に課題を明確につかませる。
- わかりやすく説明したり、児童生徒の思考や理解を深めたりする。
- 学習内容をまとめる際に、児童生徒の知識の定着を図る。

### 【ICT活用の5W1H】

- Who：誰が使う？（ICTを活用する者）  
When：いつ使う？（ICTを活用する場面）  
Why：なぜ使う？（ICT活用の目的）  
Where：どこで使う？（ICTを活用する場所・形態）  
What：何をさせる？（児童生徒に見せるもの）  
How：どのように使う？（ICT機器の活用の工夫）

### 【ICT活用場面 11項目】

- ・課題の提示 ・動機づけ ・教員の説明資料 ・学習者の説明資料 ・振り返り
- ・繰り返しによる定着 ・モデルの提示 ・失敗例の提示 ・体験の想起 ・比較

### 【ICT活用の工夫】

- ①指導のねらいや児童生徒の実態に応じた題材や素材の吟味
- ②映像などを見せるタイミング
- ③提示した映像などを指し示しながら発問、指示や説明の工夫
- ④ノートやワークシートなどの併用
- ⑤ICTによる情報の提示と黒板が連携しやすいように機器などの配置
- ⑥ICTが活用できる環境整備

『学力向上ICT活用ハンドブック』財団法人コンピュータ教育開発センター

#### (2) ICT機器を使った伝え合いの場面を設定した。

- ①何でも言い合える学級づくりが基盤。
- ②全児童に張りのある声を出せる。
- ③カーネーション発表（～ですか。～ですね。～でしょう。）の話型を用いながら話す。
- ④自分の言葉で説明させる。（次の段階は、理由・根拠を明確にした発表）
- ⑤全教師が児童に「話す」「聞く」力をつけるという意識を持って、根気強く取り組む。
- ⑥ICT機器をどのように使えば、よりよい伝え合いの場面が生まれるのかを考えながら授業を組み立てる。

#### 4、研究の方法について

- ①教師全員が授業研究を行った。
  - ・研究会では10クラス公開。（1年、2年、3A、3B、4年、5A、5B、6A、6B、特別支援）
  - ・全員が授業公開をした。（専科、システム教員も含む）

- ・「話す・聞く」場面とICT活用の場面を取り入れた授業を行った。
- ・学団で事前研修、模擬授業を行った。
- ・事後研究会の前半は授業に関して気付いたことを観点別に、一人一回発言した。後半は、講師講話を聞いて学んだ。

②一人一回、校外における研修会に参加した。

- ・県立研修所のICT講座、市主催のスキルアップ講習、全日本教育工学研究協議会全国大会（丹波大会）など

③ICT機器のスキルアップのためのミニ講座を随時、開講した。

- ・情報教育推進委員会と連携しながら進めた。

④「研修つうしん」を発行した。

ICT活用例などの技や留意点などを紙面で交流した。



## 5、研究組織

教職員全員を下のように三つの部に分け、研究組織とした。

<研究体制図>



## 6成果と課題

### 【児童生徒】

児童が授業の中でICT機器を活用したことで、視覚支援になり授業に集中しにくい児童も興味を持って取り組むことができた。また、伝え合いの場面でICT機器を活用することで、聞く態度が向上し、発表に意欲的に取り組む児童が増えた。発表の際には、児童が実物投影机、電子黒板、掲示物など自分の考えにあった方法を選択し伝える力が身につくにつれ、児童の表現力が高まった。しかし、大切なことを落とさずに聞く、聞き取るということについて課題が見られた。また、伝えることに重点が置かれ、双方向性のある伝え合いについてはこれからも指導が必要である。

### 【教職員】

授業の中にICT機器を取り入れる視点が加わったことで、授業設計に幅が広がった。また、授業の中で「さりげなく」

ICT 機器を活用でき、教育技術が高まった。「伝え合い」を意識した ICT 機器の活用を全職員が意識して取り組むことができた。ICT 機器を効果的に活用するという視点で授業研究をした結果、板書や発問の大切さなど授業作りの大切さを再認識できた。

しかし、「調べる」「まとめる」「伝える」等の本来の情報教育の実践があまりできなかった。情報モラルについて指導が不十分であった。

ICT を効果的に活用することで生み出された余剰時間について、基礎基本の学力の定着のために積極的に使っていくことをこれからの課題として考えていく必要がある。

#### 【その他】

ICT 機器に関して充実した環境設定が行えた。ICT 機器の効果的な活用について学校外に発信することができた。

#### 【参考文献】

- 『教員の ICT 活用指導力向上研修テキスト増強改訂版』教育情報化推進協議会
- 『学力向上 ICT 活用指導ハンドブック』財団法人コンピュータ教育開発センター
- 『教科指導における ICT 活用研修講座資料』兵庫県立教育研修所情報教育研修課